

24.02.2005

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

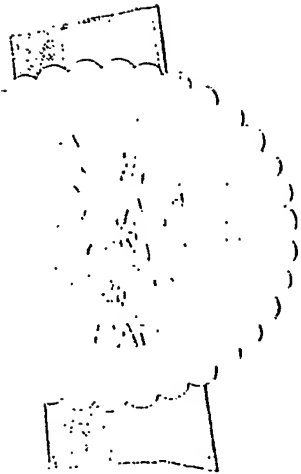
別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日            2 0 0 4 年   3 月   8 日  
Date of Application:

出 願 番 号            特 願 2 0 0 4 - 0 6 4 5 1 3  
Application Number:  
[ST. 10/C]:            [ J P 2 0 0 4 - 0 6 4 5 1 3 ]

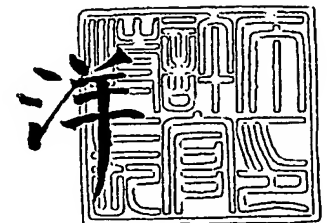
出   願   人            ソニー株式会社  
Applicant(s):



2 0 0 5 年   3 月 3 1 日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

小 川



【書類名】 特許願  
【整理番号】 0390842501  
【提出日】 平成16年 3月 8日  
【あて先】 特許庁長官殿  
【国際特許分類】 B65D 85/57  
B65D 85/00  
B65D 23/03

【発明者】  
【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社内  
【氏名】 村田 守弘

【発明者】  
【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社内  
【氏名】 松村 光徳

【発明者】  
【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社内  
【氏名】 鈴木 一平

【特許出願人】  
【識別番号】 000002185  
【氏名又は名称】 ソニー株式会社

【代理人】  
【識別番号】 100086841  
【弁理士】  
【氏名又は名称】 脇 篤夫

【代理人】  
【識別番号】 100114122  
【弁理士】  
【氏名又は名称】 鈴木 伸夫

【手数料の表示】  
【予納台帳番号】 014650  
【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】  
【物件名】 特許請求の範囲 1  
【物件名】 明細書 1  
【物件名】 図面 1  
【物件名】 要約書 1  
【包括委任状番号】 9710074  
【包括委任状番号】 0007553

**【書類名】特許請求の範囲****【請求項 1】**

ケース本体と、

ケース蓋と、

被収納部材の少なくとも一部を保持する保持部が基端側の片面に形成された保持板であって、該保持板の先端側から被収納部材が前記保持部内に抜き差し可能に挿入されて保持される保持板と、

前記ケース本体と前記ケース蓋とが開閉自在に枢支された第 1 ヒンジ、前記保持板の前記保持部が前記ケース本体側へ向けられた状態で、該保持板の基端が該ケース本体に開閉自在に枢支された第 2 ヒンジ、前記保持板と前記ケース蓋との間に介在されたアーム部の両端が該保持板と該ケース蓋とに開閉自在に枢支された第 3 ヒンジ及び第 4 ヒンジによって構成された 4 節構造部であって、前記保持板の前記保持部内に被収納部材の少なくとも一部が保持された状態で、前記ケース蓋を前記ケース本体上へ閉じることにより、前記被収納部材を前記保持板の下側へ入り込ませるように回動させて、これら被収納部材と保持板が前記ケース本体内の収納位置に収納され、前記ケース蓋を前記ケース本体から開くことにより、前記被収納部材を前記保持板の上側へ引き出すように回動させて、これら被収納部材と保持板が前記ケース本体外へ引き出される 4 節構造部とを備えたことを特徴とする収納ケース。

**【請求項 2】**

前記ケース蓋を前記ケース本体側へ閉じることにより、前記アーム部が収容される切欠きを前記保持板に形成した

ことを特徴とする請求項 1 に記載の収納ケース。

**【請求項 3】**

前記保持部がディスク状記録媒体の外周の一部を保持する円弧状部と、該ディスク状記録媒体の中心孔が挿入される浅い円柱部と、該ディスク状記録媒体の中心孔の周囲が載置されて、該ディスク状記録媒体を前記保持板から浮かす浅い円形台座部とを備えていることを特徴とする請求項 1 に記載の収納ケース。

**【請求項 4】**

前記ケース本体に前記保持部の円形部の先端が挿入される円形孔が形成されていることを特徴とする請求項 3 に記載の収納ケース。

**【請求項 5】**

前記ケース蓋、前記保持板及び前記 4 節構造部が前記ケース本体の両側に付設されていることを特徴とする請求項 1 に記載の収納ケース。

**【請求項 6】**

前記ケース蓋又はケース本体の少なくとも一方に歌詞カードや解説書等の小冊子その他の付属物を抜き差し可能に収納する付属物収納部が形成されていることを特徴とする請求項 1 に記載の収納ケース。

## 【書類名】明細書

## 【発明の名称】収納ケース

## 【技術分野】

## 【0001】

本発明は、光ディスク、光磁気ディスク、磁気ディスク等の裸のディスク類、フロッピーディスクカセットやビデオテープカセット等のカセット類等の記録媒体やこれらに類似する各種の被収納部材を収納するのに最適な収納ケースに関するものである。

## 【背景技術】

## 【0002】

従来から、裸のディスクを収納する収納ケースとして、ケース本体内にディスク保持板の基端を固定し、このディスク保持板を基端の弾性によってケース本体の上方へ斜めに押し上げ、このディスク保持板の上面に形成されたディスク保持部にディスクを斜めに保持させた状態で、ケース蓋をケース本体上へ閉じることにより、そのケース蓋でディスク保持板を基端の弾性に抗してケース本体内に押し込むようにしてディスクと共にケース本体内へ収納する。一方、ケース蓋をケース本体から上方へ開くことにより、ディスク保持板を基端の弾性によってこのディスク保持板をディスクと共にケース本体の上方へ斜めに押し上げるようにした従来例1（特許文献1）がある。

## 【0003】

また、従来のこの種収納ケースとして、ヒンジによって水平状態からほぼ山形に屈曲自在に構成された保持プレート的一端をケース蓋内に枢支し、この保持プレートの他端をケース本体にスライド自在に係止し、この保持プレート的一端側の上面に形成されたディスク保持部にディスクを保持させた状態で、ケース蓋をケース本体上に閉じることにより、保持プレートの他端をケース本体内で水平にスライドさせるようにして、このディスク保持部をヒンジによってディスクと共にケース本体内へ水平に収納する。一方、ケース蓋をケース本体から180°開くことにより、保持プレート的一端をケース本体外へ引き出しながら、その一端をケース本体の一端に形成されている当接部に上方から当接させることによるテコ作用によって、この保持プレート的一端をディスクと共にケース本体の上方へ斜めに押し上げるようにした従来例2（特許文献2）がある。

## 【0004】

また従来から、ビデオテープカセットとコンパクトディスクを収納して店頭で陳列するための収納ケースとして、不等辺の台形状に折り曲げられた屈曲自在の引上げ部材を有し、この引上げ部材の前端をケース本体の内面に固定し、この引上げ部材の後端をケース本体とケース蓋との間を接続する後板の内側に固定している。そして、この引上げ部材の上辺部に凹形状に形成した保持部内にコンパクトディスクを差し込んで保持した状態で、ケース蓋をケース本体上へ閉じた時に、後板をケース本体に対して垂直状に起立させることにより、引上げ部材の上辺部を水平に寝かせるようにして、コンパクトディスクをケース本体内の上層部に水平に収納する。なお、ケース本体内の下層部（コンパクトディスクの下）にはビデオテープカセットを収納している。そして、ケース蓋をケース本体から180°開いた時に、後板をケース本体に対して水平状に倒すことにより、引上げ部材の上辺部を傾斜させて、コンパクトディスクをケース本体の上方に斜めに引き出すようにした従来例3（特許文献3）がある。

【特許文献1】特開2001-180780号公報

【特許文献2】特開2003-40380号公報

【特許文献3】実用新案登録第3058139号公報

## 【発明の開示】

## 【発明が解決しようとする課題】

## 【0005】

従来例1の解決すべき問題点は、ケース蓋をケース本体上へ閉じることにより、ケース蓋でディスク保持板を基端の弾性に抗してケース本体内へ押し込む構造では、ディスク保持板の基端の弾性力が最も強い使用初期段階では、ケース蓋を閉じる際の抵抗が大きく、

ケース蓋の開じる際に強い力が必要となり、操作性に問題がある。一方、長期間の使用によってディスク保持板の基端の弾性が劣化してしまうと、ケース蓋を開いた時に、ディスク保持板がディスクをケース本体の上方へ十分な高さまで押し上げることができなくなり、耐久性が低いと言う問題がある。

#### 【0006】

従来例2の解決すべき問題点は、ケース蓋をケース本体から180°開くことにより、保持プレート的一端をケース本体外へ引き出しながら、その一端をケース本体の一端の当接部に上方から当接させることによるテコ作用によって、保持プレート的一端をディスクと共に斜め上方へ押し上げる構造では、保持プレート的一端に強い衝撃が常に加えられて、この保持プレート的一端が破損され易く、従来例1と同様に耐久性が低いと言う問題がある。

#### 【0007】

従来例3の解決すべき問題点は、ケース蓋をケース本体上へ閉じた時にコンパクトディスクをケース本体内の上層部に水平に収納する構造では、ケース本体内の下層部（コンパクトディスクの下）に無駄な空間が発生して、ケース本体の厚みを厚くする必要があり、裸のディスク類を収納する収納ケースとしては不適當である。

#### 【課題を解決するための手段】

#### 【0008】

本発明の収納ケースは、ケース本体と、ケース蓋と、被収納部材の少なくとも一部を保持する保持部が基端側の片面に形成された保持板であって、該保持板の先端側から被収納部材が前記保持部内に抜き差し可能に挿入されて保持される保持板と、前記ケース本体と前記ケース蓋とが開閉自在に枢支された第1ヒンジ、前記保持板の前記保持部が前記ケース本体側へ向けられた状態で、該保持板の基端が該ケース本体に開閉自在に枢支された第2ヒンジ、前記保持板と前記ケース蓋との間に介在されたアーム部の両端が該保持板と該ケース蓋とに開閉自在に枢支された第3ヒンジ及び第4ヒンジによって構成された4節構造部であって、前記保持板の前記保持部内に被収納部材の少なくとも一部が保持された状態で、前記ケース蓋を前記ケース本体上へ閉じることにより、前記被収納部材を前記保持板の下側へ入り込ませるように回動させて、これら被収納部材と保持板が前記ケース本体内の収納位置に収納され、前記ケース蓋を前記ケース本体から開くことにより、前記被収納部材を前記保持板の上側へ引き出すように回動させて、これら被収納部材と保持板が前記ケース本体外へ引き出される4節構造部とを備えたものである。

#### 【発明の効果】

#### 【0009】

本発明は、ケース本体に対するケース蓋の開閉により、保持板を4節構造部によってケース本体内の収納位置と、該ケース本体外へ引き出された位置との間で、無理なく軽快に回動させることができるので、ディスク状記録媒体等の被収納部材の出し入れ操作を軽快に行える上に、4節構造部の4つのヒンジの何れの箇所にも負荷が加えられることが全くなく、高い耐久性を確保することができる高品質の収納ケースが得られるという利点がある。また、ケース蓋の開き角度と保持板の開き角度が常に一定するので、保持板の保持部に対する被収納部材の脱着操作を安定良く行えるという利点がある。

#### 【発明を実施するための最良の形態】

#### 【0010】

ケース蓋をケース本体側へ閉じることにより、アーム部を保持板の切欠き内に收容させるように構成すれば、収納ケースの薄型化を促進することができる。

#### 【0011】

保持板の保持部にディスク状記録媒体の外周の一部を保持する円弧状部と、ディスク状記録媒体の中心孔が挿入される浅い円形部と、ディスク状記録媒体の中心孔の周囲が載置されて、そのディスク状記録媒体を保持板から浮かす台座部とを備えれば、ディスク状記録媒体の記録面を保護しつつ、このディスク状記録媒体を外周部分と中心孔部分との2箇所安定良く保持することができるディスク状記録媒体の収納ケースとして最適なものを

提供することができる。

#### 【0012】

更に、保持板の円形部の先端をケース本体に形成した円形孔内に挿入させるように構成すれば、ケース蓋を閉じた時に、ディスク状記録媒体の中心孔部分を確実に保持することができるので、収納ケースの反転や振動、衝撃等によってディスク状記録媒体が収納ケース内でずれて動いて記録面に傷が発生する等の危険性が皆無となり、ディスク状記録媒体を安全に収納することができる。

#### 【0013】

ケース蓋、保持板及び4節構造部をケース本体の両側に付設することにより、薄型構造でありながら、ケース本体の両側に2枚のディスク状記録媒体等の2つの被収納部材を同時に非接触状態で収納することができる高品質の収納ケースを提供することができる。

#### 【0014】

ケース蓋又はケース本体の少なくとも一方に歌詞カードや解説書等の小冊子その他の付属物を抜き差し可能に収納する付属物収納部を形成すれば、音楽用や映像用その他の各種用途の記録媒体を収納して保管するのに最適な収納ケースを提供することができる。

#### 【実施例1】

#### 【0015】

図によって、本発明の収納ケースの1実施例を説明するが、この実施例では、被収納部材として、CD、DVD、DVD-ROM、その他の直径12cmの光ディスク、光磁気ディスク、磁気ディスク等の裸のディスク1の収納ケース2を示している。但し、MO等の直径8cmやその他の各種の直径の裸のディスクであっても、サイズの変更により同様に収納することができる。

そして、この収納ケース2は合成樹脂等にて成形されたものであって、ケース本体3の両側に2枚のケース蓋4及び保持板5を装着して、ケース本体3の両側に2枚のディスク1を収納することができるものであるが、ケース本体3を中心にして左右対称構造となっていることから、構造説明では、ケース本体3とその片側のケース蓋4及び保持板5との関係についてのみ説明する。

#### 【0016】

まず、ケース本体3の基端3aの一側面側にはケース蓋4の基端4aが左右一対で同心状の第1ヒンジ（支点ピンによるヒンジ）11によって矢印a、b方向に開閉自在に枢支されている。また、ケース本体3内の基端3a側には保持板5の基端5aが第1ヒンジ11と平行で左右方向に間隔を隔てて配置された3つの同心状の第2ヒンジ（支点ピンによるヒンジ）12によって矢印c、d方向に開閉自在に枢支されている。また、保持板5の基端5aに近い位置とケース蓋4の基端4aに近い位置との間に左右方向に平行状に介在された長方形の板形状の左右一対のアーム部13の上下両端（長さ方向の両端）が保持板5とケース蓋4とにそれぞれ同心状の第3ヒンジ（弾性を有する屈曲可能な接続部によるヒンジ）14及び第4ヒンジ（支点ピンによるヒンジ）15によって相互に開閉自在に枢支されている。

そして、これら第1ヒンジ11、第2ヒンジ12、第3ヒンジ14及び第4ヒンジ15によって4節構造部16が構成されている。

#### 【0017】

なお、長方形の板形状の左右一対のアーム部13は保持板5の3つの第2ヒンジ12間に形成された左右一対の長方形の切欠き17内に第3ヒンジ（弾性を有する屈曲可能な接続部によるヒンジ）14を介して一体成形されていて、後述するようにケース蓋4を閉じた際に、左右一対のアーム部13をその保持板5の左右一対の切欠き17内にて、その保持板5の板厚内に収納されるように構成されている。

#### 【0018】

そして、保持板5の上面（ケース本体3と対向される側の面）で、その基端5a側にはディスク1の外周1aの一部を保持する円弧状の保持部5b（複数の保持部5bによって全体が円弧状に形成されているもの）が一体成形されている。そして、この保持板5の先

端 5 c の中央部にはディスク 1 の中心孔 1 b が挿入される浅い円柱部 5 d と、そのディスク 1 の中心孔 1 b の周囲 1 c を浮かす浅い円形台座部 5 e が一体成形されている。

また、ケース本体 3 の内面にはディスク 1 が挿入される円形凹部 3 b が形成されていて、その中心には保持板 5 の円柱部 5 d の先端が挿入される円形孔 3 c が形成され、その円形孔 3 c の外周にはディスク 1 の中心孔 1 b の周囲を受ける浅い円形台座部 3 d が形成されている。更に、このケース本体 3 の基端 3 a 側には保持板 5 の円弧状の保持部 5 b が挿入される切欠き 3 e が形成されている。

#### 【0019】

そして、ケース蓋 4 の内面にはディスク 1 に対する逃げ用の円形凹部 4 b が形成されていて、ケース本体 3 の円形凹部 3 b とケース蓋 4 の円形凹部 4 b の外周及び保持板 5 の保持部 5 b の内周部分にはディスク 1 の最外周部分を受けるリング状台座部 3 f、4 c、5 f が形成されている。

なお、ケース蓋 4 をケース本体 3 上に閉じた時に、そのケース蓋 4 をケース本体 3 に係止するための凸部 7 a と凹部 7 b とからなる 1 つ又は一対のクリック係止部 7 がこれらケース本体 3 の左右両側面 3 g とケース蓋 4 の左右両側面 4 f との間に形成されている。そして、ケース蓋 4 の先端 4 d の中央部に手の指先を挿入するための凹部 4 e が形成されている。

#### 【0020】

この収納ケース 2 は以上のように構成されていて、ディスク 1 の収納時には、図 4 に示すように、ディスク 1 の記録面 1 d を下側にして保持板 5 上に斜め上方である矢印 e 方向から挿入し、そのディスク 1 の外周 1 a の一部を保持部 5 b 内に挿入してリング状台座部 5 f 上に乗り上げさせて保持させ、そのディスク 1 の中心孔 1 b を浅い円柱部 5 d の外周に挿入して、その中心孔 1 b の周囲を円形台座部 5 e 上に載置する。

これにより、ディスク 1 の記録面 1 d が保持板 5 に接触されることなく安全に保持される。

#### 【0021】

そこで、図 1 及び図 2 に示すように、ケース蓋 4 をケース本体 3 上に矢印 a 方向に閉じて、クリック係止部 7 の凸部 7 a と凹部 7 b を軽く係止すると、4 節構造部 1 6 によって、保持板 5 がケース蓋 4 に連動してケース本体 3 内に矢印 c 方向へ自動的に折り畳まれて、この保持板 5 と一緒にディスク 1 がケース本体 3 内へ矢印 c 方向へ挿入され、このディスク 1 がケース本体 3 内に平行状に収納される。この時、ディスク 1 がケース本体 3 とケース蓋 4 の円形凹部 3 b、4 b 内に収納されて、保持板 5 の円柱部 5 d の先端がケース本体 3 の円形孔 3 c 内に挿入される。また、そのディスク 1 の外周 1 a の両面がケース本体 3 とケース蓋 4 のリング状台座部 3 f、4 c まで上下から受け止められる。

#### 【0022】

これにより、ディスク 1 の記録面 1 d を下向きにして保持板 5 上に正しく保持した状態で、ケース蓋 4 を閉じた場合は勿論のこと、ディスク 1 の記録面 1 d を上向きにした状態で保持板 5 上に保持してケース蓋 4 を閉じてしまったような間違った使い方をした場合においても、ディスク 1 の記録面 1 d がケース蓋 4 やケース本体 3 の何れの内面にも接触されることなく、安全に保持されるので、その記録面 1 d がケース蓋 4 やケース本体 3 の内面に接触してデータが破損されてしまうことを未然に防止することができる。

#### 【0023】

また、このディスク 1 の収納状態では、保持板 5 の円柱部 5 d 先端がディスク 1 の中心孔 1 b を貫通してケース本体 3 の円形孔 3 c に挿入されるので、ディスク 1 がケース本体 3 とケース蓋 4 との間で水平方向（ディスク 1 の面に沿った方向）へ不測に移動することを未然に防止することができて、ディスク 1 を収納ケース 2 内に安全に収納しておくことができる。

#### 【0024】

また、このディスク 1 の収納状態では、板形状の左右一対のアーム部 1 3 が図 6、図 10 等 に示されている保持板 5 の左右一対の切欠き 1 7 内に挿入されて、これらのアーム部

13がその保持板5の板厚内に收容され、収納ケース2の薄型化を促進している。

なお、図1及び図2に示すように、ケース蓋4をケース本体3上に完全に閉じ込んだ時に、クリック係止部7の凸部7aと凹部7bが弾性に抗して係止されて、ケース蓋4がケース本体3に係止（ロック）される。

#### 【0025】

次に、ディスク1の取り出し時には、図3及び図4に示すように、ケース蓋4の先端4dの凹部4eに手の指先を挿入（引っかけること）して、このケース蓋4を第1ヒンジ11を中心にケース本体3の上方へ矢印b方向へ開く。

すると、4節構造部16によって保持板5が第2ヒンジ12を中心にケース本体3の上方へ矢印d方向に開かれて、その保持板5の保持部5bに保持されているディスク1がこの保持板5と一緒に矢印d方向へ引き出される。従って、この後、例えば、ディスク1の外周1aの両側を手の親指と薬指、中指、小指等で握ると共に、人差指の先をディスク1の中心孔1b内に挿入して把持し、このディスク1を保持板5の斜め上方へ少し浮かせるようにして、保持部5bから斜め上方である矢印f方向に容易に抜き取ることができる。

#### 【0026】

なお、図4～図6は収納ケース2の片方のケース蓋4をケース本体3から矢印b方向へ180°開いた時の様子を示したものであり、図7～図10は収納ケース2のケース本体3を垂直状に立てた状態で、両方（両側）のケース蓋4を共に矢印b方向に90°開いた時の様子を示したものである。

#### 【0027】

また、図11は、ケース蓋4の内側（又は外側）に形成された薄い溝穴形状の付属物収納部19を示したものであって、歌詞カードや解説書等の小冊子その他の付属物20をその出し入れ口19aから内部へ矢印g、h方向に抜き差し可能に収納することができるように構成したものである。

このように、付属物収納部19を形成すれば、音楽用や映像用その他の各種用途のディスク1を収納して保管するのに最適な収納ケース2を提供することができる。

なお、ケース本体3の片側のみにケース蓋4を取り付けて、単一のディスク1を収納する収納ケース2であれば、ケース本体3及び／又はケース蓋4の何れにも同様の付属物収納部19を形成することができる。

#### 【産業上の利用可能性】

#### 【0028】

以上、本発明の収納ケースの実施の形態に付き述べたが、本発明の技術的思想に基づいて各種の変更が可能である。

例えば、前述した実施例の収納ケース2は、ケース本体3の両側にそれぞれ一對のケース蓋4、保持板5及び4節構造部16を備えて、ケース本体3の両側に2枚のディスク1を収納することができるものを示したが、ケース本体3の片側のみにケース蓋4、保持板5及び4節構造部16を備えて、ケース本体3の片側のみに単一のディスク1を収納することができる収納ケース2であっても良い。

#### 【0029】

また、本発明の収納ケース2は、保持部5bの形状や大きさを変更したり、ケース本体3及びケース蓋4の厚みを変更することにより、MD等の小型のディスク1や、ディスク以外のコンパクトカセットやビデオテープカセット等のカセット類やその他の円板形状、非円板形状の各種被収納部材を収納することができるものである。

#### 【図面の簡単な説明】

#### 【0030】

【図1】本発明の収納ケースの1実施例を示すディスク収納状態の外観斜視図である。

【図2】図1の上側のケース蓋とその内部を断面で示した側面図である。

【図3】同上の収納ケースの片側のケース蓋をほぼ90°開いた状態を示した斜視図である。



【図 4】 同上の収納ケースの片側のケース蓋を  $180^{\circ}$  開いた状態を示した斜視図である。

【図 5】 図 4 の片側のディスクを取り外した状態の斜視図である。

【図 6】 図 4 を断面で示した側面図である。

【図 7】 同上の収納ケースの両側のケース蓋をほぼ  $90^{\circ}$  開いた状態の斜視図である。

【図 8】 図 7 の両側のディスクを取り外した状態の斜視図である。

【図 9】 図 7 の側面図である。


【図 10】 4 節構造部を示した斜視図である。

【図 11】 ケース蓋の付属物収納部を示した斜視図である。

【符号の説明】

【0031】

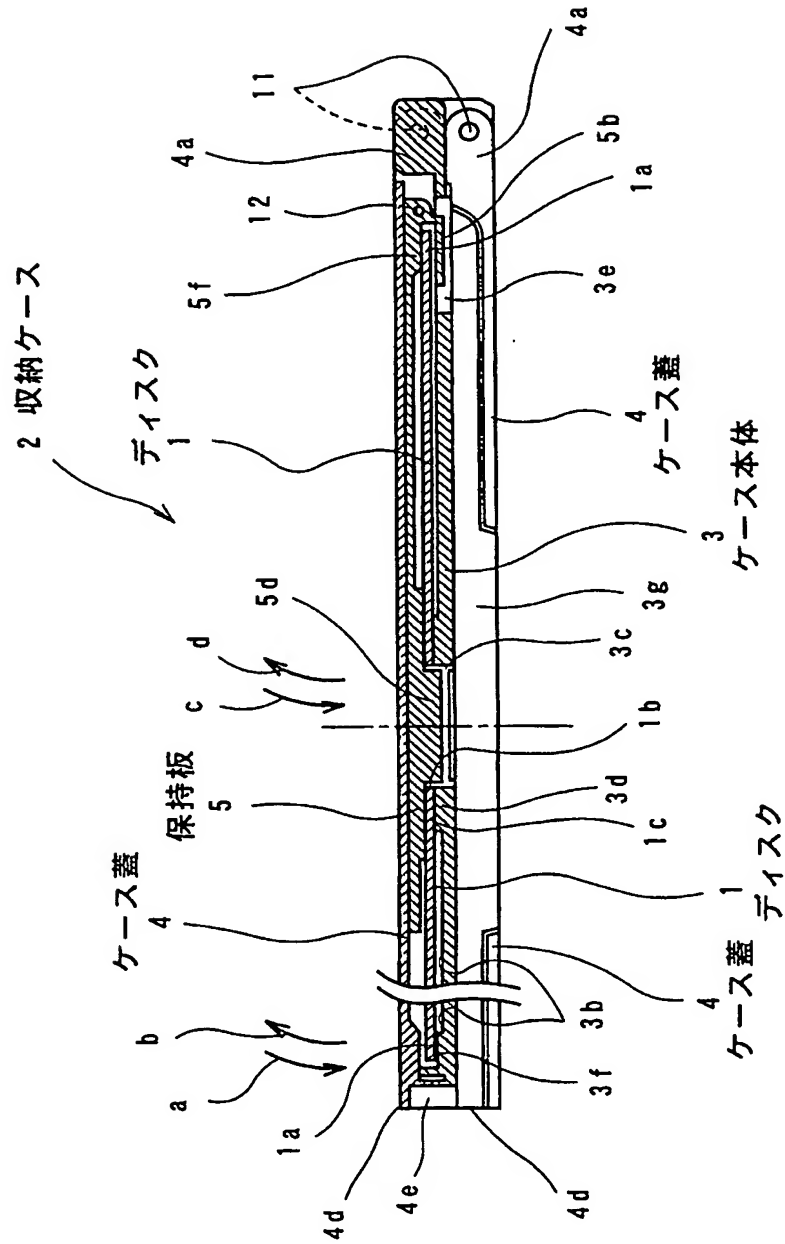
- 1 被収納部材であるディスク
- 2 収納ケース
- 3 ケース本体
- 3 a ケース本体の基端
- 3 b ケース本体の凹形凹部
- 3 c ケース本体の円形孔
- 3 d ケース本体の円形台座部
- 3 e ケース本体の切欠き
- 3 f ケース本体のリング状台座部
- 4 ケース蓋
- 4 a ケース蓋の基端
- 4 b ケース蓋の円形凹部
- 4 c ケース蓋のリング状台座部
- 4 d ケース蓋の先端
- 5 保持板
- 5 a 保持板の基端
- 5 b 保持板の保持部
- 5 c 保持板の先端
- 5 d 保持板の円柱部
- 5 e 保持板の円形台座部
- 5 f 保持板のリング状台座部
- 11 第 1 ヒンジ
- 12 第 2 ヒンジ
- 13 アーム部
- 14 第 3 ヒンジ
- 15 第 4 ヒンジ
- 16 第 1、第 2、第 3、第 4 ヒンジによって構成された 4 節構造部
- 17 アーム部が収容される切欠き
- 19 付属物収納部
- 20 付属物



【書類名】 図面

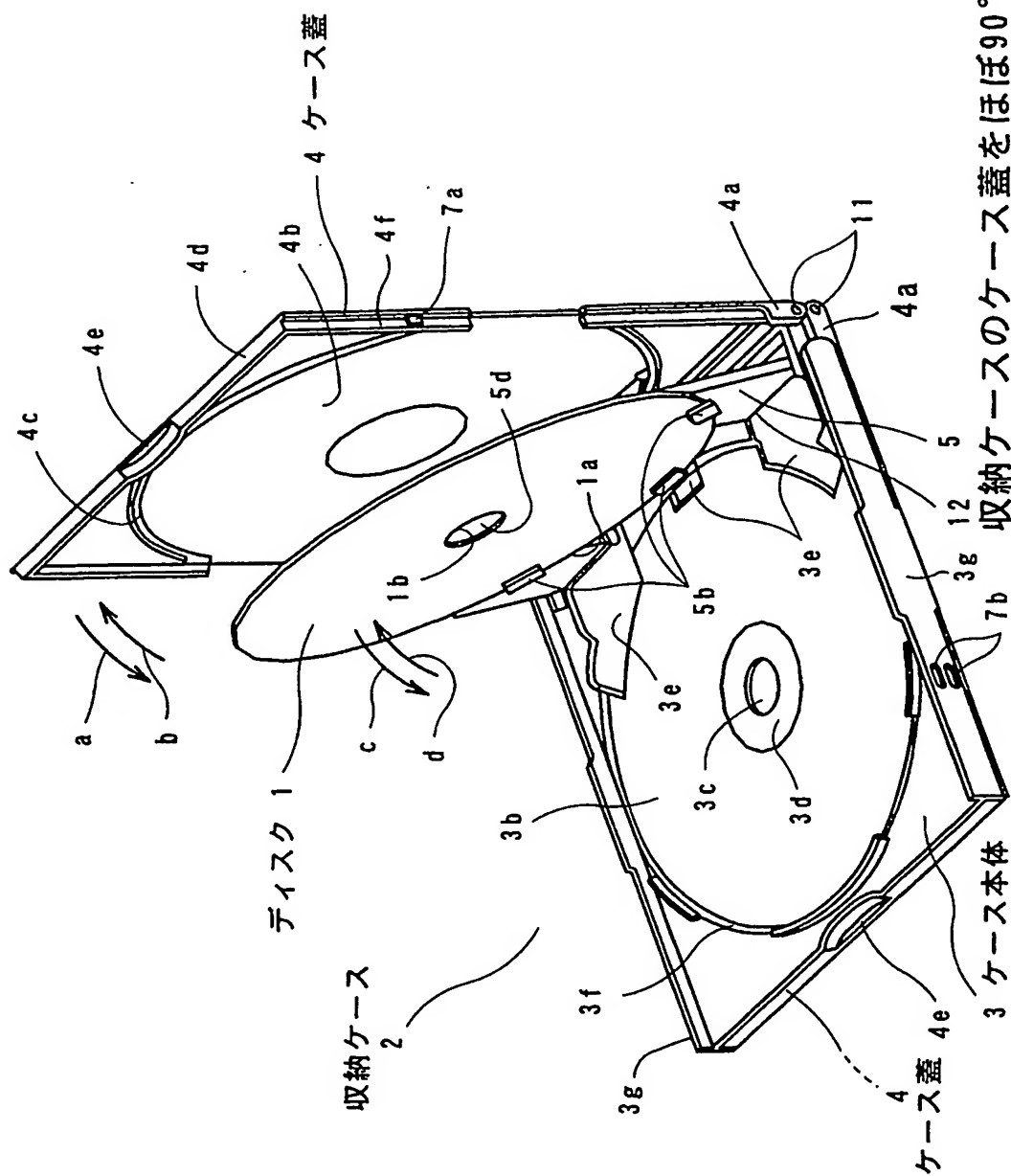


【図 2】



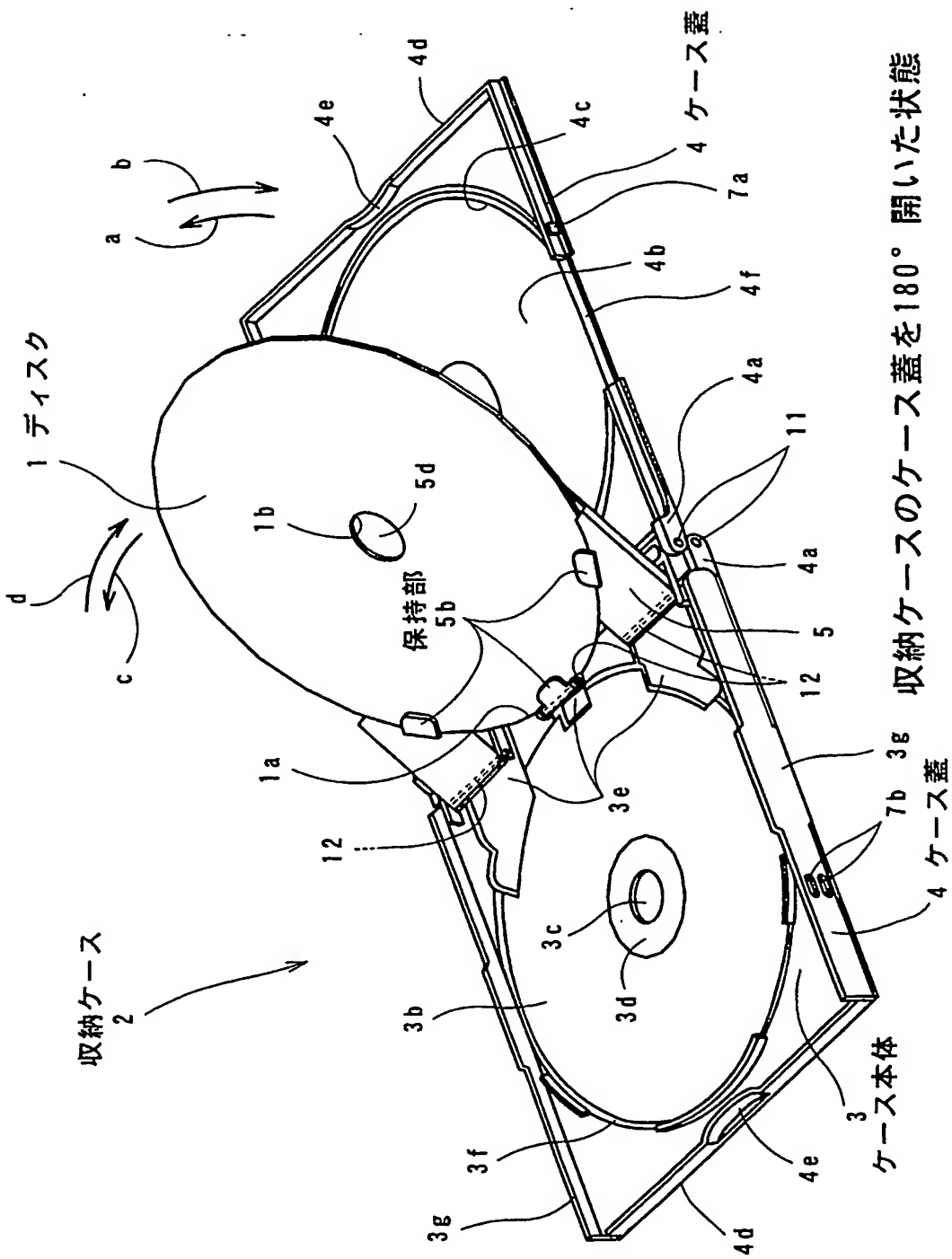
収納ケースのケース蓋を閉じた状態

【図3】

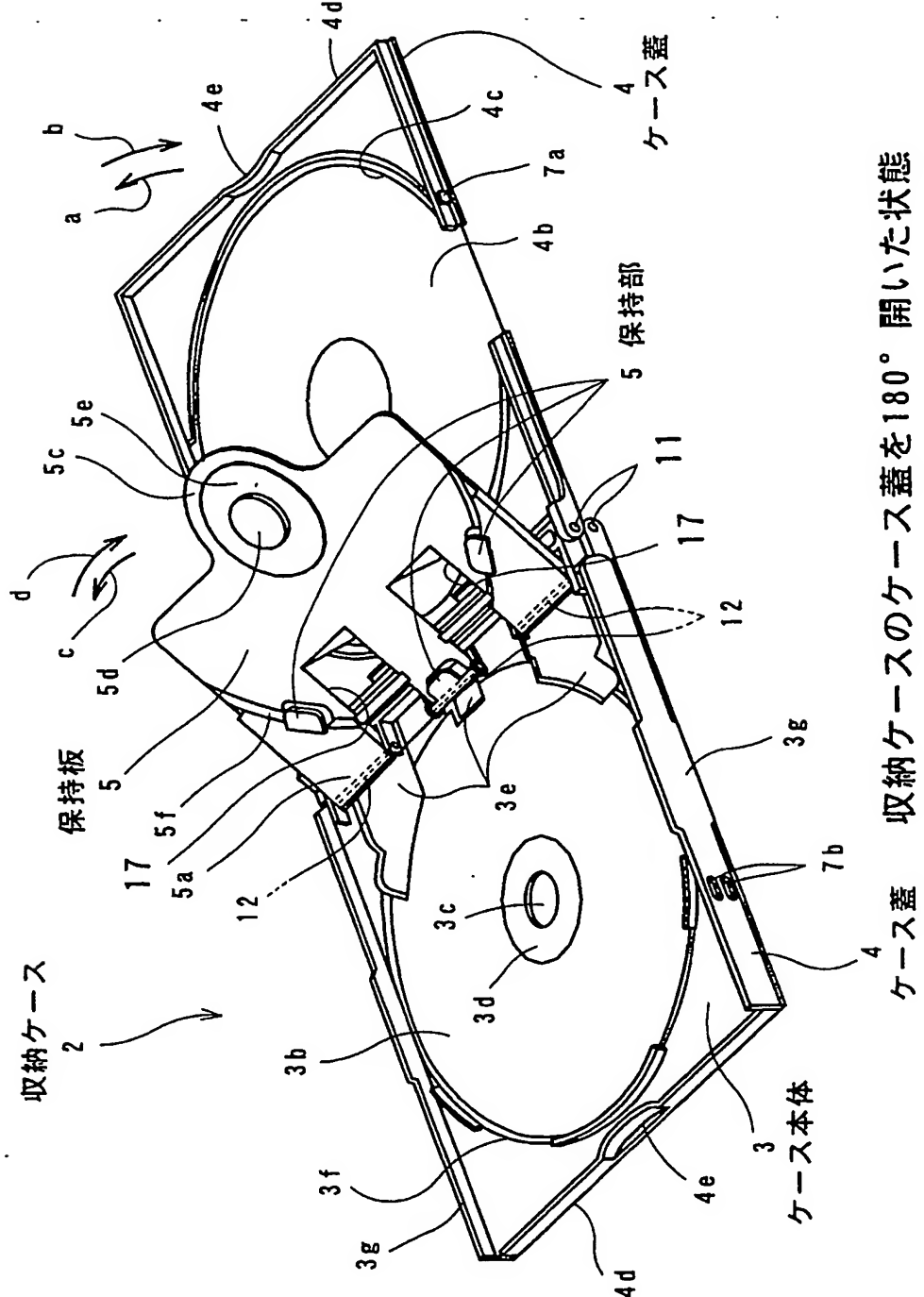


収納ケースのケース蓋をほぼ90°開いた状態

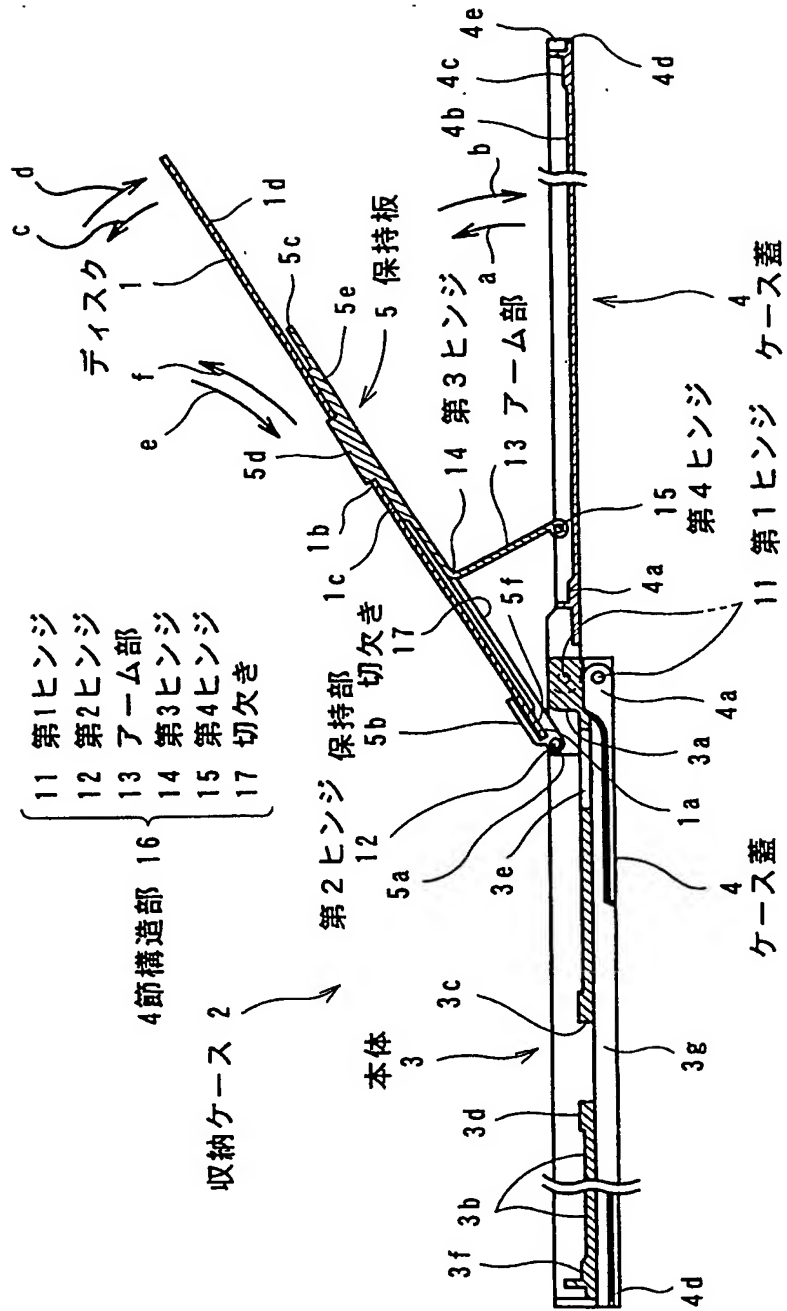
【図4】



【図5】



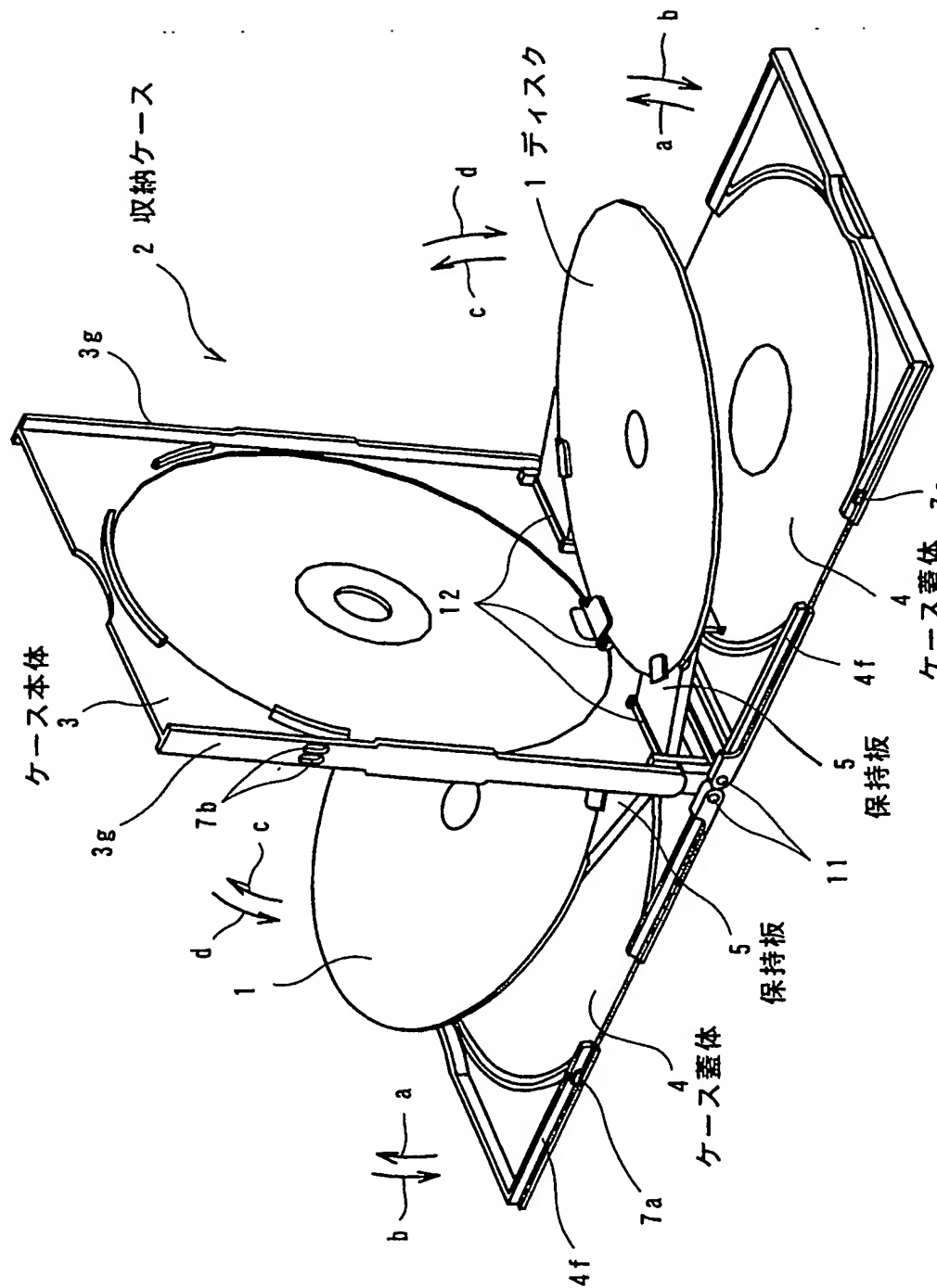
【図6】



収納ケースのケース蓋を開いた状態

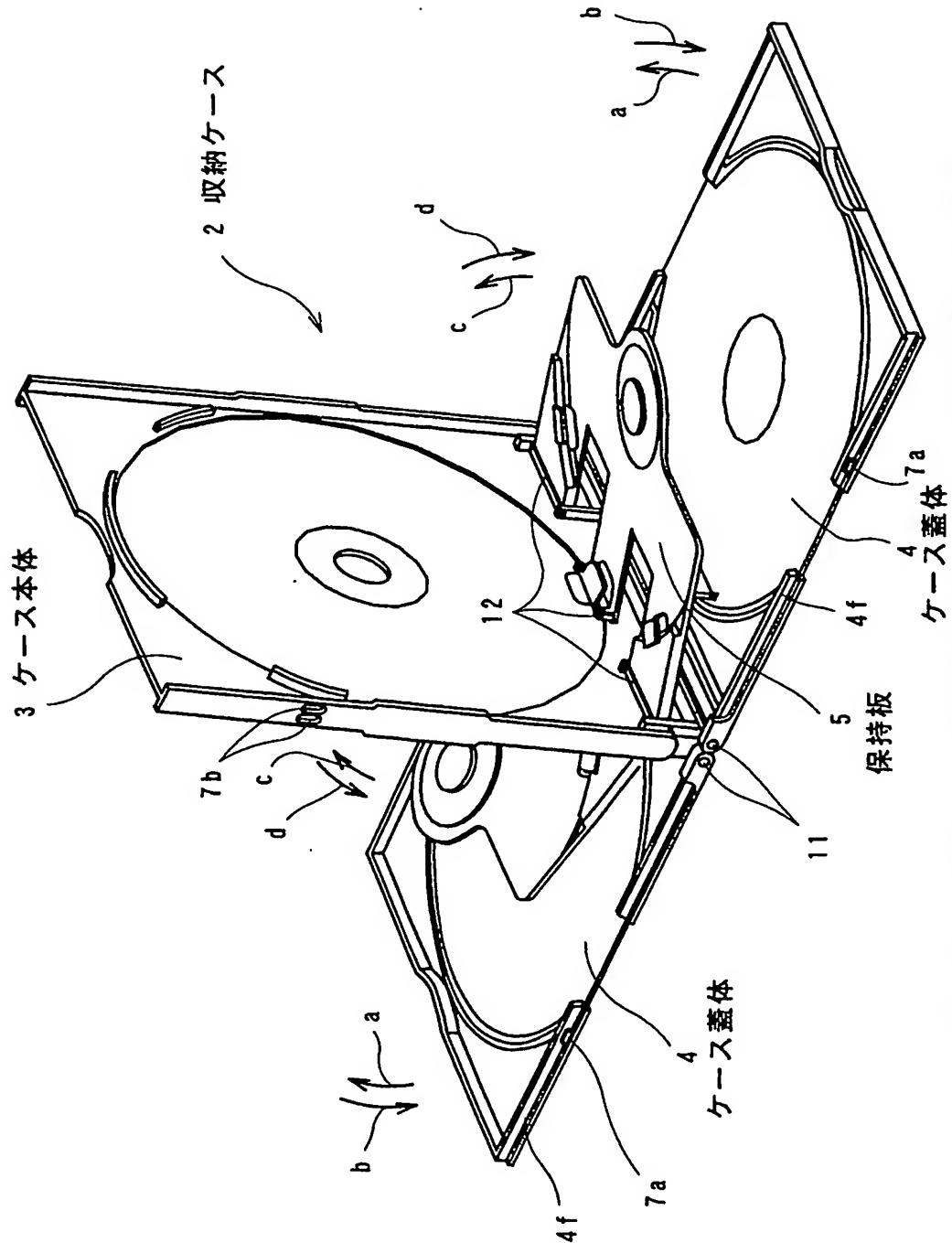


【図 7】



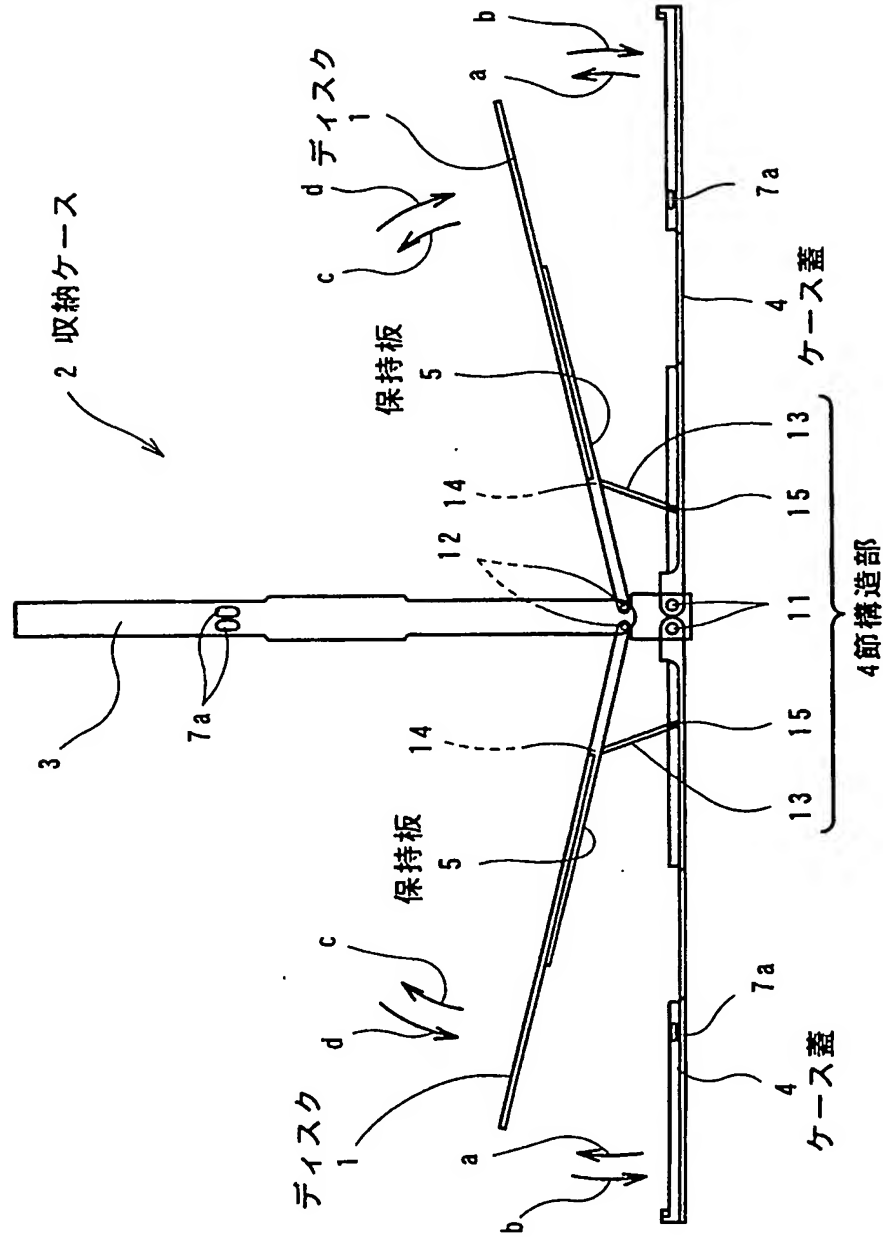
収納ケースのケース本体の両側のケース蓋を開いた状態

【図 8】



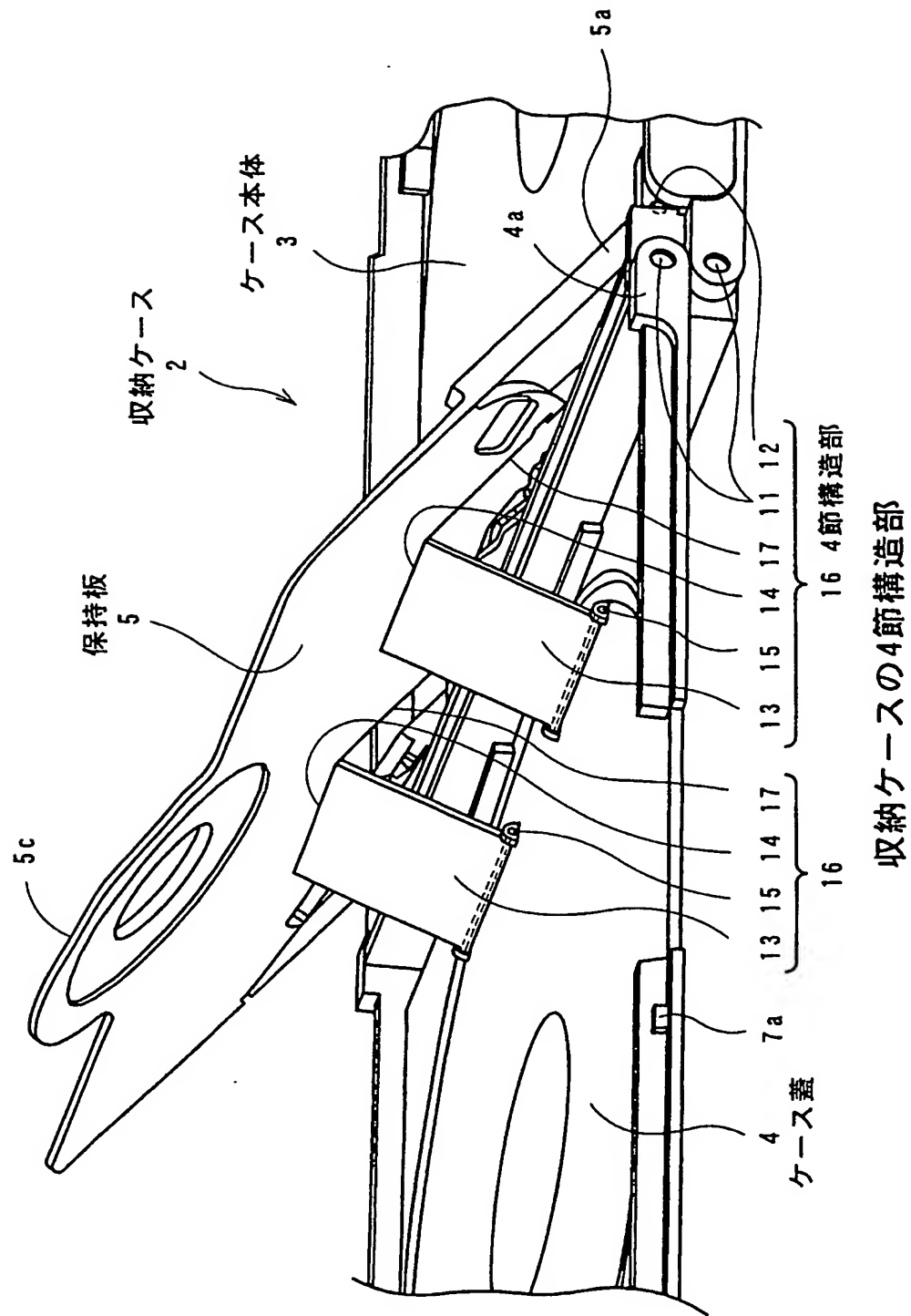
収納ケースのケース本体の両側のケース蓋を開いた状態

【図 9】

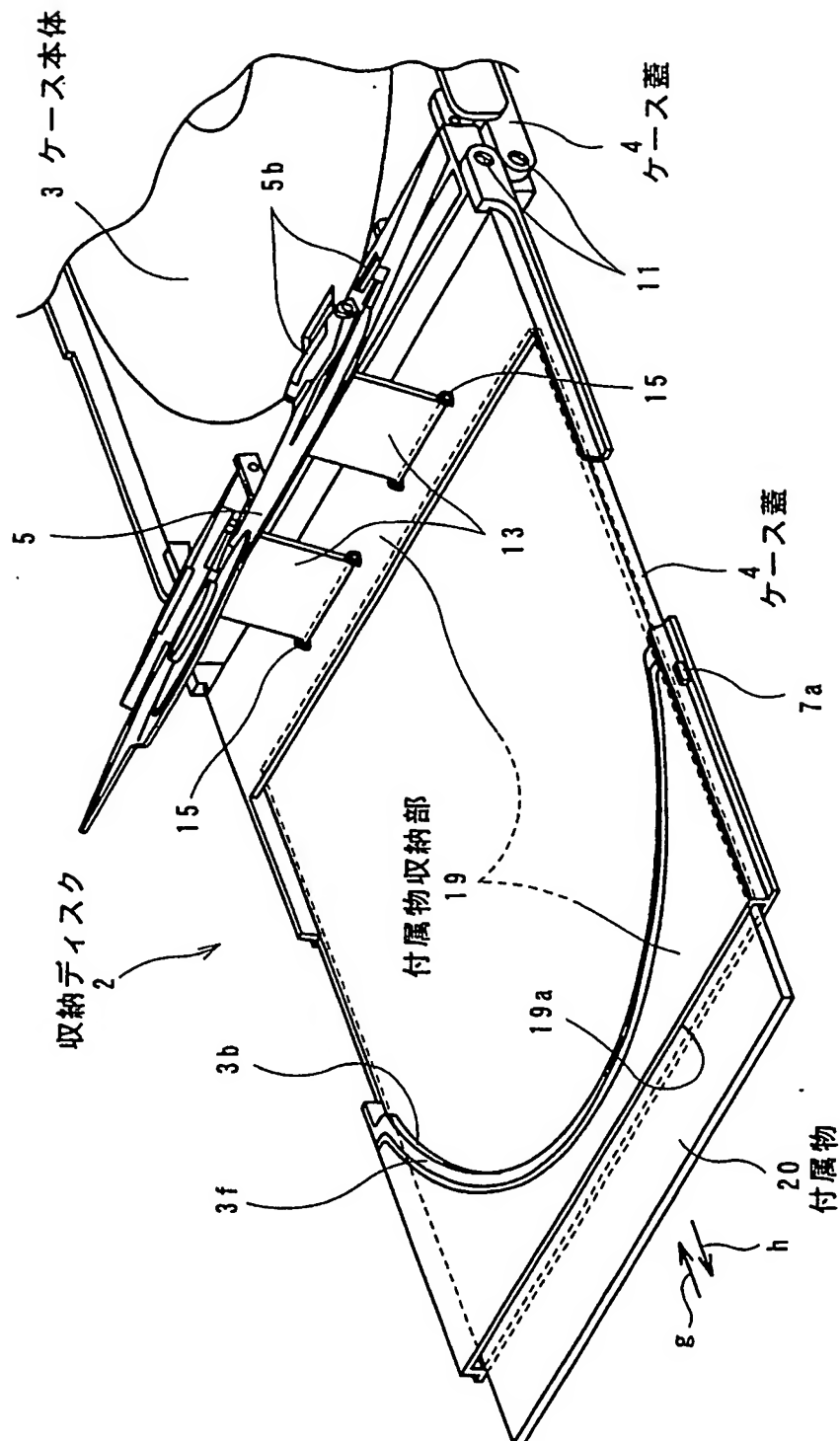


収納ケースのケース本体の両側のケース蓋を開いた状態

【図 10】



【図 11】



収納ケースの歌詞カード等の付属物収納部

**【書類名】要約書****【要約】**

**【課題】** ディスクの出し入れ操作を軽快に行え、耐久性の確保と、ディスクの脱着操作を安定良く行えることを可能にする。

**【解決手段】** ケース本体 3 とケース蓋 4 とディスク 1 を保持する保持板 5 とを第 1、第 2、第 3、第 4 ヒンジ 11、12、14、15 及びアーム部 13 からなる 4 節構造部 16 によって相互に開閉自在に枢支して、ケース蓋 4 をケース本体 3 に対して開閉することにより、ケース蓋 4 と一緒に保持板 5 がケース本体 3 に対して出し入れされる収納ケース 2。

**【選択図】** 図 6

## 認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2004-064513
受付番号	50400380513
書類名	特許願
担当官	第四担当上席 0093
作成日	平成 16 年 3 月 12 日

## &lt;認定情報・付加情報&gt;

## 【特許出願人】

【識別番号】	000002185
【住所又は居所】	東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 35 号
【氏名又は名称】	ソニー株式会社

## 【代理人】 申請人

【識別番号】	100086841
【住所又は居所】	東京都中央区新川 1 丁目 27 番 8 号 新川大原ビル 6 階
【氏名又は名称】	脇 篤夫

## 【代理人】

【識別番号】	100114122
【住所又は居所】	東京都中央区新川 1 丁目 27 番 8 号 新川大原ビル 6 階 脇特許事務所
【氏名又は名称】	鈴木 伸夫

特願 2 0 0 4 - 0 6 4 5 1 3

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [ 0 0 0 0 0 2 1 8 5 ]

1. 変更年月日	1 9 9 0 年 8 月 3 0 日
[変更理由]	新規登録
住 所	東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号
氏 名	ソニー株式会社



# Document made available under the Patent Cooperation Treaty (PCT)

International application number: PCT/JP05/003553

International filing date: 24 February 2005 (24.02.2005)

Document type: Certified copy of priority document

Document details: Country/Office: JP  
Number: 2004-064513  
Filing date: 08 March 2004 (08.03.2004)

Date of receipt at the International Bureau: 14 April 2005 (14.04.2005)

Remark: Priority document submitted or transmitted to the International Bureau in compliance with Rule 17.1(a) or (b)



World Intellectual Property Organization (WIPO) - Geneva, Switzerland  
Organisation Mondiale de la Propriété Intellectuelle (OMPI) - Genève, Suisse